

郭 1（本郭） 北 虎 口



▲ 本郭北虎口位置図（赤丸部分）

袖部に結晶片岩の石積みを伴う堅固な虎口です。下の北腰郭へは屈曲したスロープによって接続され、更に枡形虎口、つづら折りの城道へと連なる入念な造りとなっています。発掘調査では、東側の袖と対になる西側袖の石積みを確認しました。東袖については、北先端の礎石と南北方向の石列、被災痕を検出し、ここに門跡が想定されること、そして2期以上の作り替えがあることが分かりました。東袖造成土中からは瀬戸大窯1期の広口有耳壺片と常滑11期の甕片が出土し16世紀第一四半期から第三四半期頃の普請と作り替であることが判明しています。

（ときがわ町教育委員会）



▲ 北虎口西袖石積み（南より）



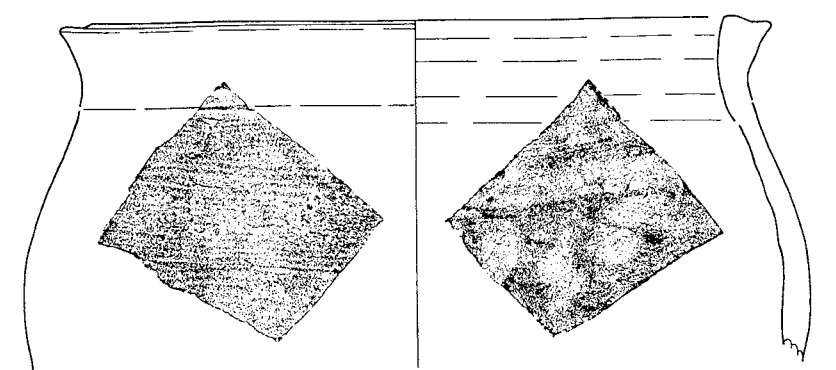
▲ 北虎口東袖石積み（南より）



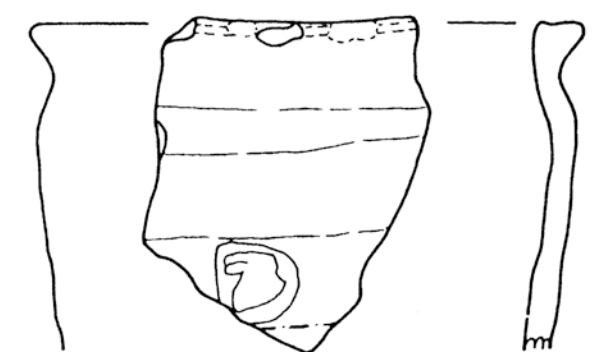
▲ 北虎口東袖北端礎石



▲ 北虎口東袖石列



▲ 北虎口出土甕（常滑11期）



▲ 北虎口出土広口有耳壺（瀬戸美濃大窯1期）